



津田塾大学 第3回 高校生エッセイ・コンテスト  
～ John Lennonに手紙を書こう～

# “IMAGINE”

今、あなたは何を考えていますか？  
深く、広く、世界を想像するとはどんなことなのでしょう。

「イマジン」

最近、よく耳にするようになったこの歌。

なぜ、いま、「イマジン」なのか、

そしてこの歌にどんな意味が込められているのか、想像してみませんか。

「イマジン」を知って、ジョン・レノンに手紙を書いてみませんか。

## 1 手紙形式のエッセイ募集

ジョン・レノンの「イマジン」の歌詞を読んで、あなたが考えたこと、思ったこと、感じたことを、ジョン・レノンへのあなたからの手紙という形式で、自由に書いてみてください。

## 2 応募資格

高校生(学年や性別を問いません。)

## 3 応募要領

日本語の場合は、400字詰原稿用紙3枚(縦書き1200字)程度。  
英語の場合は、400words(A4判用紙)程度。  
※別紙に、氏名(フリガナ)、所属高校(所在県名)、学年、自宅住所、電話番号を記入して原稿に添付し、郵送してください。

## 4 募集期間

2002年7月1日(月)～2002年9月6日(金)(当日消印有効)

## 5 賞金等

最優秀賞1人(賞金5万円を贈呈、10月6日(日)津田塾大学において表彰します)。優秀賞若干名(賞金1万円を贈呈)。最優秀作品は津田塾大学広報紙「Tsuda Today」と津田塾大学ホームページに掲載・公表します。

## 6 入選発表

10月1日(火)までに、入選者本人に通知します。

## 7 提出先・問い合わせ先

〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1 津田塾大学エッセイ・コンテスト係 Tel.042-342-5113 E-MAIL:kouhou@tsuda.ac.jp

<http://www.tsuda.ac.jp/>

津田塾大学ホームページで、第1回、第2回エッセイ・コンテストの選考結果等を掲載しています。どうぞご覧ください。

あなたが考えたこと、思ったこと、感じたことを、ジョン・レノンへの  
あなたからの手紙という形式で、自由に書いてみてください

IMAGINE by John Lennon

Imagine there's no heaven  
It's easy if you try  
No hell below us  
Above us only sky  
Imagine all the people  
Living for today...

Imagine there's no countries  
It isn't hard to do  
Nothing to kill or die for  
And no religion too  
Imagine all the people  
Living life in peace...

You may say I'm a dreamer  
But I'm not the only one  
I hope someday you'll join us  
And the world will be as one

Imagine no possessions  
I wonder if you can  
No need for greed or hunger  
A brotherhood of man  
Imagine all the people  
Sharing all the world...

You may say I'm a dreamer  
But I'm not the only one  
I hope someday you'll join us  
And the world will be as one

IMAGINE  
Words & Music by John Lennon  
© LENONO MUSIC  
Rights for Japan controlled by EMI Music Publishing  
Japan Ltd. c/o Fujipacific Music Inc.  
JASRAC #0116370-101

## ギフト ジョン・レノンから私たちへの贈り物

ジョン・レノンは、1980年に40歳という若さでこの世を去るまで、数多くの曲を世に送り出しました。ある時は20世紀を代表するロックバンド、ザ・ビートルズの一員として、ある時は平和活動家として、またある時は一人の父親として…

1971年、ジョンは“Imagine”を発表します。ビートルズ解散後のことでした。当時世界はベトナム戦争や北アイルランド紛争などの争いの渦に巻き込まれ、大きく揺れていました。ジョンは“Imagine”に世界平和の願いを込めて歌いました。純粋に平和を思う気持ちを歌いました。今でもこの曲が多くの人の胸を打つのは、誰もが願う自然な気持ちを歌ったからにはかきません。

ジョンは自分の気持ちに素直な人でした。表面でいようと努めたという方が正しいのかもしれませんが、嬉しいこと、怒ったこと、悲しいこと、辛いこと…自分の気持ちを曲にのせて歌いました。ジョンは誰よりも人として生きる苦しみ、そして喜びを知っており、歌はその表現の一手段だったのです。今でもジョンの作った音楽は、私たちへのかけがえのない贈り物として大切に引き継がれています。皆さんもジョンの言葉に耳を傾け、彼の思いを感じとってみてください。

### ジョン・レノンをもっと知るために

■書籍：ジョン・レノン、オノ・ヨーコ、アンディー・ビーブルズ著「ジョン・レノン ラストインタビュー」（中央公論新社、2001年）、ジョン・レノン/絵 オノ・ヨーコ/序・監修  
「Ai-ジョン・レノンが見た日本」（筑摩書房、2001年） ■遊びに行きませんか、ジョン・レノン・ミュージアムへ（埼玉県さいたま市 <http://www.taisei.co.jp/museum>）